

TSUNAGU

～学びの先の夢に向かって～

東大阪市教育委員会 小中一貫教育推進室



トピックス

小中一貫教育推進室だより「TSUNAGU」では、子どもたちの様子や学校園の取組みなど、市内における小中一貫教育をはじめとした連続・一貫した教育活動の状況を発信していきます。

新喜多中学校区 『あこがれでつながる9年間』

今年度も各中学校区において特色を生かした中学校登校が積み重ねられています。

新喜多中学校区では、『あこがれでつながる9年間』を目標に中学校登校においても様々な“しかけ”が見られました。



中学生からの全カメッセージ



クラブ紹介では、クラブの魅力伝える工夫が満載でした。楽しい学校生活を伝えようと、全力で表現する中学生の姿がありました。



クラブ決めていたけど、他のクラブもすごく楽しそう。中学生かっこいいな。

中学校の先生への質問タイム

どの質問にも、丁寧に答える中学校の先生の姿がありました。



「朝読の本は自分で持ってくるんですか？」
「髪型は自由ですか？」
「新しいクラブは作れますか？」

本当に何でも聞いていいんだ！

校舎探検「暗号解読ミッション」

班長が持つ校舎図を見ながら、暗号を見つけに校舎探検をしました。その途中、教室の前に立つ6年生に、授業をしている先生が声をかける姿がありました。



「どうぞ中に入って。どんな風に学習をしているのか見ていってね。」

中学生は、こんな風に授業するんだなあ



暗号の答えは、予想を大きく外れていました。
「わかった！教室に戻って、中学校の先生に報告しよう。」



「shigitter」で6年生からメッセージ



「あこがれの先輩へ」6年生の中学校登校についての感想が中学校に掲示されました。保護者の方も興味を持って見ておられました。

「にじいろ通信」で地域・家庭の感想掲載

通信に感想フォームにつながるQRコードがあり、保護者や地域の方からの感想を送ってもらっています。

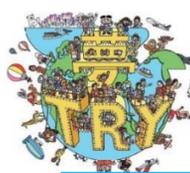


【地域の方の感想】

30年前にはなかった小中一貫の取り組みがあると知って驚きました。子どもたちを地域全体で見守っていく体制であることがわかり、感動しました。



新喜多中学校区の中学校登校では、取組む目的を明確にした様々な“しかけ”が見られました。小6の子どもたちが、中学生に「あこがれ」を持つことによりつながり、少し先の自分の姿を想像し、今の自分の生活をふり返ることにつながっています。



地域の方々と一緒に夢TRY科を実践

6月2日（木）英田南小で地域の方が参加しての夢TRY科の授業実践がありました。

伝言ゲームを通して、情報は伝わる時に変化したり、情報を正しく伝えるには工夫が必要であることを体験的に学ぶ授業でした。（「情報の伝わり方に注意」第2時）



前時に簡単なお題で伝言ゲームのルールを確認し、本時は難しいお題に対して地域の方も学習者として参加され、「どうしてこのような結果になったのか」について話し合う活動がありました。



子どもたちは答えのない課題に対して、友だちや地域の方々と一緒に、「どうしてうまくいかなかったのかな」ということを話し合う姿が見られました。

「消防士をしていましたが、今日の授業を通して、命に関わる現場では、伝えたい内容は、はっきりと最後まで伝えるようにすること。伝わったかどうかを確認することが大事だということを思い出しました。」



【子どもたちのふりかえり】

「昨日とちがって、今日うまく伝わらなかった。なんでそうなるのかなと、みんなといっばい話し合えた。」



「情報が伝わっていくときに情報が変わらないときはあるのかな？と思いました。休み時間にまたやってみたい。」

池田ゆり校長先生は、「この日の学びは、普段の授業では体験できないかけがえのないものになった。」とおっしゃっていました。

地域を交えた夢TRY科の実践により、探究的な学習の充実につながりました。

参加された地域の方々も、子どもたちが一人一台のタブレットを使って表現し、主体的に学び合う授業が日常的に行われていることに驚かれるとともに、「子どもたちと一緒に活動することが楽しかったので、また機会があれば子どもたちに関わっていきたい。」という声もありました。

探究的な学習では、自分の考えが広がったことを喜び、さらなる学習への意欲を高める子どもの姿が期待されます。

このような実践は、めざす子どもの姿を地域と共有することができ、さらに連携・協働が充実することにより、めざすべき学校教育の実現につながります。



初田幸隆氏の講義を聞いて

小中一貫教育コーディネーター会議

6月23日（木）初田幸隆氏（京都市教育委員会参与）による研修を実施しました。

まず、「学校（公教育）の役割とは」と質問され、義務教育9年間で何をめざして教育活動を実践していくべきなのかを様々な視点でお話されました。

最後に「子どもたちが生きるこれからの社会では、小中一貫教育はあたりまえのように進んでいく。」と述べられたことで、思いを新たに小中一貫教育コーディネーターの姿がありました。



【コミュニケーションカードより】

- つけたい力、めざす子ども像を精査して小学校1年生から中学校3年生まで段階的かつ具体的に校区全体で考えていく必要があると思いました。そのような活動を進めていくことを考えると一日一日が非常に大切になっていくと感じました。
- 子ども同士がつながること、子どもが発信すること、子どもに考えさせることの大切さを改めて感じました。小中一貫教育という方法の中で、何ができるのか、これからもっと考えていかないといけないと思いました。